

産後ケア事業の 多胎児加算見直しを



田中 紗弥佳 議員

問 多胎児の出生数や利用実績を踏まえ、6日目を以降の双子加算は必要か。また、負担軽減を検討できないか。

答 多胎児へのサービス提供については、事業者の業務負担が多くなるため、一定の加算は必要で利用区分に応じた負担を求めている。今後も利用しやすい事業となるようニーズ把握に努める。

防災ナビ活用へ 公式LINE導入を

問 情報発信ツールとしてきりしま防災・行政ナビを運用しているが、日常的に利用されているLINEを市民への情報発信の入り口として利用できないか。また、学校の

タブレットへきりしま防災・行政ナビを導入し、防災教育に活用する考えはないか。

答 LINEの活用については、有効な手段の一つであると認識しているが、現時点では、LINE公式アカウント等を導入する予定はない。きりしま防災・行政ナビの学校での活用は、検討していく。

地区防災計画の推進を



今村 純子 議員

問 地区防災計画について今後どのように進めていく予定か。第二次霧島市総合計画のKPIの項目に入れてはどうか。

答 現在作成されている地区防災計画は10件。今後も、地区防災計画の策定支援などを通じて自主防災組織の充実を図り地域防災力の向上に努めていく。地区防災計画のKPI設定は、次期計画策定の過程において、検討していく。

いきいきチケットの利用 条件の拡充を

問 霧島市いきいきチケット支給事業の利用条件について、介護する立場から範囲を拡大させることができないか。

答 いきいきチケットは高齢者等の介護予防を目的に健康と福祉の増進を図っており、在宅や施設入所者の利用方法についても広報紙等を通じて制度の周知に努める。

中山間地域の生活サービス、 にぎわいづくり



塩井川 公子 議員

問 過疎地域の発展やにぎわい創出に向けた施策の成果はどうか。また、企業誘致、新規事業者の参入促進の取組について、現状と今後の方向性はどうか。

答 霧島市過疎地域持続的発展計画に基づき、過疎地域と市街地が特長を生かし相互に支え合う持続可能な共生社会の実現を目指している。施策ごとに過疎地域における課題、その対策の方向性を示し、高速ブロードバンド環境の整備、移住定住促進事業、丸岡公園整備事業、霧島公民館や福山公民館の整備、市道の道路改良工事など過疎地域の生活基盤の整備やにぎわい創出に取り組んでいる。

また、企業誘致においては、固定資産税の課税免除について、別途、対象業種を設けることにより、立地の一層の促進を図っている。



横川地区の工業団地

誰もが支えあい、生き生きと 暮らせるまちづくりを



鈴木 てるみ 議員

問 人口減少・高齢化が進む中で、安心して暮らせる「地域共生社会」を実現するため、どのような方向性・理念を持つて取り組んでいくのか。

答 住み慣れた地域で暮らし続けるための地域包括ケアシステム構築の推進や、障がい児・障がい者の支援などの施策を推進してきた。今後も地域住民や関係団体との協議を一層深め、本市ならではの地域共生社会の実現に向けて取り組んでいく。

啓発に取り組めないか。

答 飼い主のいない猫の糞尿や鳴き声等に関する苦情が多く寄せられており、主な要因は猫の遺棄や無責任な餌やりである。市ホームページや広報誌への掲載、看板等の配布で適正な管理・飼育の啓発を行っている。

人と猫が共生できる 地域づくりは

問 猫の遺棄は依然として後をたたない。正しい飼い方のさらなる周知・



飼い主のいない猫も
しあわせに
暮らしてほしい
～猫と人が共生する地域を実現～

その他の質問
市営住宅入居条件の緩和



詳しくは「しあわせ」

国分敷根地区の 土砂災害対策は



渡邊 圭章 議員

問 出水期のたびに住民が恐怖を感じ続ける状況は心身の負担が大きい。安心して暮らせるための体制強化はできないか。

答 敷根地区をはじめ、きりしま防災・行政ナビや市ホームページを通じて、日常の防災意識向上に取り組んでいる。また、危険度に応じた避難情報を発令し、市民の早い避難行動につながるよう様々な手段で情報発信を行っている。さらに、市

民からの通報への対応および情報収集を行う体制も整えている。

自治会のデジタル化を

問 住民負担の軽減や加入率向上のためのDX化を進められないか。

答 自治会のデジタル化は負担軽減や災害時の迅速な情報共有に有効だが高齢者対策やセキュリティ対策に課題がある。今後、自治公民館連絡協議会等で取り上げること検討し、加入促進と地域活動の活性化を進める効果的な方法を調査・研究する。



敷根災害現場



詳しくは「しあわせ」

中山間地域における これからの対策は



町田 和己 議員

問 中山間地域の人口、出生数、年齢構成の現状をどのように分析しているか。これからの課題はどうか。

答 本市の人口は平成12年をピークに減少傾向にあり、特に中山間地域である溝辺・横川・牧園・霧島・福山の地区においては減少幅が大きい。今後は中山間地域の少子高齢化は進行すると推測されるため、令和8年度を初年度とする次期「霧島市過疎地域持続的発展計画」の策定に着手しており、各地域の実情に応じた効果的な対策を講じていく。

廃止に伴う対応はどうか。

答 ふれあいバスの見直しを図る際には、意見交換会や乗り込み調査などで利用状況の分析に努めている。公共交通の再編については「霧島市地域公共交通計画」に基づき地域住民の意見を踏まえ、デマンド交通への転換を図るなどの取組を行っている。



きりしまMワゴン



詳しくは「しあわせ」

問 生活交通としてデマンド交通の改善や路線バス、ふれあいバスの減便・